

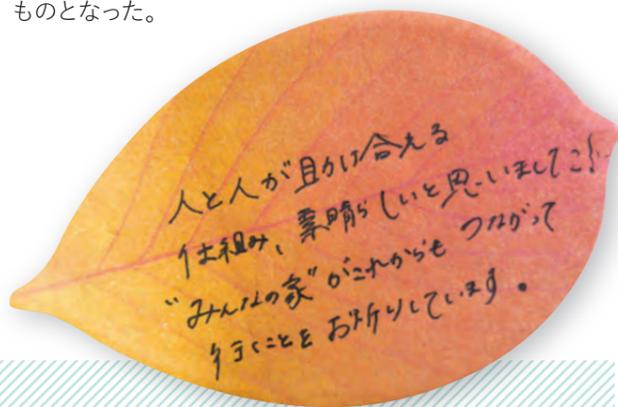
くまもとアートポリス 巡回展

—— みんなの家、後世へつなぐ復興 ——

「みんなの家」のこれまでとこれから。
自然災害からの復興のあり方を考える。

くまもとアートポリスの取り組みを、国内外に発信するために4年に1度開催している「くまもとアートポリス建築展」。本年度は、「自然災害が頻発する社会をどう生きるか」をテーマに展覧会、シンポジウムを計画した。そのひとつとして、東日本大震災をきっかけにスタートした「みんなの家」のプロジェクトを中心に、人と人とのつながりを大切にきた復興を進めてきたこれまでの取り組みを振り返り、熊本地震、令和2年7月豪雨と熊本県を襲った災害から立ち上がる熊本の姿を全国に発信する展覧会を開催。「み

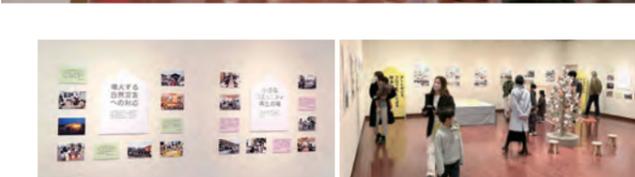
んなの家」のたどってきた時間を写真パネルや映像で振り返り、これまで担ってきた、そしてこれから担う役割について想像し、自然災害からの復興について、みんなで考える巡回展となった。東京メトロ銀座駅からスタートした巡回展は、熊本、そして仙台と人と場所をつなぎながら意義あるものとなった。



熊本会場

2021.11.3 WED → 2022.1.16 SUN

熊本市現代美術館 井手宣通記念ギャラリー、ギャラリーⅢ



熊本会場では、「みんなの家」が発案された東日本大震災から、熊本地震、豪雨災害において120棟以上整備された「みんなの家」につながる歴史やストーリーをパネルで紹介。くまもとアートポリス事業の一環として取り組んできた「みんなの家」の背景を知ること、自然災害からの復興のあり方を再確認する機会となった。参加型展示「みんなのエアールツリー」には500近いメッセージが寄せられた。

東京会場

2021.10.22 FRI → 10.28 THU

東京メトロ銀座駅 B2出入口付近 ふるさとPRイベントスペース



当初は、仙台、東京、熊本と巡回する予定だったが、新型コロナウイルス感染症の感染拡大により仙台会場が延期となり、東京会場からのスタートとなった。東京会場では、東京メトロ銀座駅構内のイベントスペースという、非常に人通りが多い場所で展示を行った。新型コロナウイルス感染症対策のため、展示物を壁面パネル10枚のみに限定し、くまもとアートポリスの取り組みを伝えた。

仙台会場

2022.1.23 SUN → 1.26 WED

せんだいメディアテーク 1階オープンスクエア



熊本から「みんなの家」を提供し、第1号の「みんなの家」が整備された地である仙台で展示を行った。会場は、せんだいメディアテークの1階オープンスクエア。人通りが多く、オープンで広い空間を生かして、パネルや模型をサークル状に配置した。また、初日は「みんなの家シンポジウム」と連携して開催し、シンポジウムに合わせた展示を行った。

2021.11.27 SAT 展覧会企画トークイベント

これからの公共建築、 災害時のアートインフラを考える

開催場所 | 熊本市現代美術館(ホームギャラリー)
出演 | 日比野克彦(熊本市現代美術館 館長)
曾我部昌史(くまもとアートポリスアドバイザー)

人と人のつながり、気持ちと気持ちの交換。
そこには、必ずアートの存在がある。

2021年6月に熊本市現代美術館の館長に就任した日比野氏と、くまもとアートポリスアドバイザーである曾我部氏とのトークイベントを、巡回展開催中の熊本会場にて開催。これからの公共建築と災害時のアートの役割をテーマに、1時間のトークが繰り広げられた。会場には事前に申し込みのあった参加者が訪れ、トークイベントの様子は動画でも生配信された。釜石にある「みんなの家」でワークショップを開催した経験を持つ日比野氏は、「このプロジェクトの魅力は「みんなの家」という言葉。場所や立地、あり方すべての意味を含んでいて、懐の深さを感じる」とコメント。曾我部氏は「他者との違いを前提に暮らしていくことを含めてアート。その場を作るという意味での公共建築がこの先のありようだ」と語った。



参加者 Comment



10年前に夫婦で熊本に移住し、安心して子育てできる環境だと実感しています。今回のトークイベントの中で「時が止まった心が動き出す瞬間が、アートインフラとしてできる大きな仕事」という日比野さんの言葉が、とても胸に落ちました。
(横山 輝智香さん・優風さん)



大学の研究室にあったポスターを見て、今回のトークイベントに参加。アートポリスのことは知っていたが、今回のイベントで「みんなの家」の取り組みを初めて知った。公共建築のことを知ることが、これからの自分の学びに活かしていきたい。
(河野 辰悟さん・宝満 輝さん)